マレーシアがもっと好きになる ライフスタイルマガジン FREE 毎月5日発行

senyum

[セニョ～ム]

10 October 2011
26 号

2011年10月5日発行 26号（毎月 1回5日発行）KDN No. PP 16491/06/2012 (030089)

特集

マレーポップを楽しもう！

FOOD REVIEW

Jal-Dae-Ji

本場の味を楽しめる
韓国料理のジャル・デ・ジ

FOOD REVIEW

レストランめんめん

味も世界遺産!?
ペナン出身者が集う店

SENYUM いちおし

イセタン KLCC 店

フードマーケットがリニューアルオープン！

タウンガイド ◆ペナン＆イポー編◆

音楽の秋が到来！

マレーポップを楽しもう

歌詞がマレー語の曲が大半ということもあり、なかなか入りにくいマレー音楽の世界。しかしながら、ここ数年マレーシアのミュージックシーンは熱くなってきています。バックグラウンドが分かればもっと面白くなる！今月は、マレーポップミュージックの世界をたっぷりとご紹介します。

文・アティカ：マレーシアに暮らして８年。テレビ・映画好きが興じて、マレーシアの芸能情報に詳しくなる。音楽、映画、ドラマにはまっていくうち、気がつけばすっかりマレーシア人化。

マレーポップミュージックの流れ

マレーシアで人気のポップミュージックとされるものは、古くは50年代のP.Ramlee（P.ラムリー）による映画音楽。60年代には、後に「Pop Yeh-Yeh（ポップ・イェーイェー）」と称されるようになる、いわゆる60年代風の音楽が大ヒット。ビートルズなどイギリスのロックバンドのスタイルに影響を受けた音楽が流行しました。

70年代後半に入り、Sudirman（スデールマン。ハリラヤの時期によく流れる〝オーオーオー、バーリッ カンボーン♪〟が有名）などが人気を博す一方でAlleycats（アリー・キャッツ）などの非マレー系のミュージシャンも登場。80年代から90年代前半にかけてはスローロック、ヘビーメタル、ハードロックやブルースなどのバンドも登場し始め、スコーピオンズやレッド・ツェッペリン、ディープ・パープルなどの影響を受けたそれらの新しいバンドを、M.Nasir（Mナシール）が、作詞家、プロデューサーとして引っ張っていく形となりました。特にそのなかでもSearch（サーチ）とWings（ウィングス）は人気が高く、彼らの全盛期がいわばマレーシアンロックの全盛期であるとも言えるでしょう。また、ほぼ同時期には、R&Bやジャズの影響を受けたスタイルのポップミュージックも現れ、その代表格としてはSheila Majid（シーラ・マジッド）が挙げられます。

90年代半ばからは、なんと言ってもSiti Nurhaliza（シティ・ヌルハリザ）。オーディション番組から登場した彼女は、その澄んだ声と抜群の歌唱力、丸顔のキュートな顔立ちで、あっという間にスターダムにのし上がり、人種を問わず、マレーシアの国民的アイドルとなりました。

そんななか、ちょうどアメリカでコーラスグループが人気を博していた頃、イスラム教に関わる歌を歌う「Nasyid pop music」なるものも現れ、Raihan（ライハン）などの「ナシッド・コーラスグループ」も活躍するようになります。

インドネシアポップミュージックの進出

マレー語とインドネシア語が類似していることもあり、隣国インドネシアのポップミュージックは古くから親しまれてきました。しかしながら、２００５年あたりからは勢いのよい新しいインドネシアの音楽がその人気を高め、特にラジオでは連日どの番組もインドネシアの最新ヒット曲を流すようになり、ＴＶドラマの主題歌さえもインドネシアの曲が使われるようになってしまいました。そこで２０１０年３月10日、マレー語のラジオ局には、ローカルの歌手の新曲を必ず流すということが義務付けられるようになります。

マレーポップミュージックの復活

前述のインドネシア音楽の進出は、単にインドネシア音楽が聴衆に受け入れられやすいものだったからということにのみ端を発しているのではなく、マレーシアの音楽業界が新しい種類の歌や歌手を輩出できずにいたことが大きな理由の一つであると考えられます。そんな停滞気味の音楽業界に再び活気をもたらしたのが、「アカデミ・ファンタシア」をはじめとするＴＶのオーディション番組と、そこから生まれた新しいスターたち、そしてインディペンデントシーンから飛び出してきた新しいジャンルの歌手たちでしょう。

前者のオーディション番組は、ＳＭＳによる人気投票という視聴者参加型のものがほとんどで、全国各地の予選を勝ち抜いたファイナリストたちが頂点を目指して毎週コンサートに挑むというもの。特に中年女性層やその子供の世代に大うけし、マレー系の人々の間では話題の中心となっていきました。

後者のインディペンデントシーン出身の歌手やシンガー・ソングライターとしては、日本でも頻繁にツアーを行うPete Teo（ピート・テオ）、２００６年に「Anugerah Industri Muzik」で最優秀男性ボーカル賞にも選ばれたShanon Shah（シャノン・シャー）、最近では、同年代女性からの絶大な人気を誇るYuna（ユナ）、イポー出身の人気バンドHujang（フジャン）、メジャーデビュー以降数々のヒットを飛ばし続けている3人組Bunkface（バンクフェイス）、インディペンデントシーンを支えるイベントなども積極的に企画・運営しているReza Salleh（レザ・サレー）などが挙げられます。

まずはライブに足を運んで

マレーシアのミュージシャンたちは、メジャーな人でもかなりフレンドリーで親しみやすい人が多いのが特徴です。ＴＶ３が主催の「Jom Hebot（ジョム・ヘボッ）」全国ツアーや、国立劇場イスタナ・ブダヤの屋外広場で毎週土曜日の夜に開催されている「Laman Santai（ラマン・サンタイ）」など、気軽に足を運べる無料のイベントが数多くあります。また、ジャズ好きな方に有名な「No Black Tie」などでも、インディペンデント系ミュージシャンが頻繁にライブを行っています。まずはお暇な時間に、ライブに足を運ばれてみてはいかがですか？そのうち1、2曲はマレーシアの歌もカラオケで歌えるようになるかもしれません!?

注目のシンガーソングライター

Reza Salleh（レザ・サレー）

Reza Salleh
（2010 Redbag Music）

ここ数年、頻繁にその名前を耳にするようになった、シンガー・ソングライターのReza Salleh（レザ・サレー）。一見、甘いマスクでフレンドリーな若者という印象の彼。昨年待望のデビューシングルを発売してからは、新聞、雑誌などでも多く取り上げられているほか、ライブ活動も精力的にこなしている。そんななか、日本ツアー中の彼に話を聞いてみた。

（インタビュー・文：アティカ）

―大学時代、オーストラリアに留学されていたそうですが、音楽はその頃始められたのですか？

いえ、音楽活動はマレーシアで始めました。メルボルンで勉強していた時、夏休みになるとマレーシアに帰ってきて、KLで狂ったように演奏していました（笑）。モナッシュ大学で経営システムを勉強していたのですが、実は14歳の時から演奏活動はしていてずっと好きだったので、音楽業界に入っていくというのは自分にとってはとても自然なことだと感じました。

―誰の影響を受けていると思いますか？　個人的に好きなミュージシャンは？

自分の作る音楽は大抵いろいろなものがミックスしていると思うのですが、それは恐らく自分が育つなかで聞いてきた90年代の音楽からきているものなのだと思います。ニルヴァーナやレイジ・アゲインスト・ザ・マシーン、シルバーチェアーのような音楽がたくさん出回っていました。黒人系アメリカ人のボーカリストの曲を聞くことも非常に好きで、多分彼らの魂のようなものを見習って自分の声のなかに反映させようとしているのだと思います。

―ご自身の音楽制作・演奏活動のほかに、音楽イベントの企画・運営も積極的にされていますよね。それは、イベントプロデューサーという役割を楽しんでらっしゃるからですか？　それともローカルのインディペンデント音楽シーンを活性化させるために、誰かがそのような役割を引き受けていかねばならないと感じているからでしょうか？

いやいや、正直なところ、ボクはオーガナイザーとしては全然ダメなので、それでもやっているということは何か理由があるのでしょうね（笑）。おっしゃるとおり、もっと多くの人がマレーシアにおけるクリエイティブ・アートを発展させていくための役割を担っていかなければならないのだと思います。音楽あるいはアートコミュニティーの、個人ではなく集団による動きが必要でしょう。何もすべての人と知り合いである必要もないし、全員と仲良しである必要もないと思うんです。ただ、同じゴールを目指して動いていくという意識が必要だと思います。

―最近福岡でもライブされたのですよね？　どのようなきっかけでそのようなことになったのですか？また、福岡での公演はいかがでしたか？

福岡サンセットライブフェスティバルの創設者から招待を受けたんです。その方は以前にローカルのシンガー・ソングライターであるピート・テオを尋ねてKLにいらしていて、その時にはじめてお会いしました。ピートはこの数年間、韓国や日本などからのミュージシャンをKLに呼んできていて、この地域にある点を線でつなぐという大きな役割を果たしてきている人です。

このフェスティバルは素晴らしく、非常に楽しいイベントでした。観客の方々も応援してくれて、とても良い時間を過ごすことができました。実は今はまだ次のライブのために大分にいて、この後長崎、北九州、そしてまた福岡に戻る予定です。

―ご自身のアルバム以外に、senyumの読者の方々にお薦めしたいアルバムを教えてください。

そうですね、今だとYunaの"Decorate"とLiyana Fiziの新作"Between the Lines"でしょうか。

―次の予定は？　senyum読者でも気軽に足を運べそうなライブなどありますか？

前述のLiyana Fiziなど、若くて才能のあるシンガーソングライターたちとのイベントをいろいろと企画していますが、10月以降のイベントの詳細に関しては、ぜひボクのウェブサイト（www.rezasalleh.net）をご覧下さい。

おすすめCD＆歌手リスト

マレーポップならこれがおすすめ！アティカさんを筆頭に、おすすめ音楽を紹介してもらいました。初心者でも入りやすい曲が大集合〜！

アティカ のおすすめ

Yuna
（2008 Redbag Music）
『Yuna』
（ユナ）

インディー系の歌手として2006年ごろから様々なイベントなどに登場し始めたシンガー・ソングライターのYUNA。このデビューＣＤには、大ブレイクした“Dan Sebenarnya”が収録されている。音楽のみならず、ヘッドスカーフをかぶる若い女の子達にとってはファッションリーダー的な存在でもある。

ADRENALIN
（2008 Redbag Music）
『Faizal Tahir』
（ファイザル・タヒール）

テレビオーディション番組マレーシアン・アイドルから登場したロック歌手Faizal Tahir。作曲も手がける彼は、激しい曲からバラードまで、ヒットを立て続けに飛ばし続けている。今のりに乗った彼のこのアルバムには、“Hanyut”や“Bencinta”、“Selamat Malam”などのヒット曲が満載。

Alleycats NO.1s
（2002 Redbag Music）
『Alleycats』
（アリーキャッツ）

70年代から今まで変わらぬ人気を誇るAlleycats。ボーカルのアフロヘアがトレードマークとなっている。お薦めは何と言ってもこのベスト盤。マレーシア人みんなが歌えるヒット曲が満載のほか、10曲目は日本人にも懐かしい、もんた＆ブラザーズの「ダンシング・オールナイト」のカバー曲！

Talentime
（2009 Redbag Music）
『Aizat、Atilia, Pete Teo』
（アイザット、アティリア、ピート・テオ）

故ヤスミン・アーマッド監督の最後の作品となった“Talentime”のサウンドトラック盤。Pete Teo作詞・作曲のオリジナル英語バージョンと、劇中歌として使われたマレー語訳バージョンの両方を収録。Aizatの歌った“Pergi”は2010年のAIMで最優秀楽曲賞に選ばれた。

Realize Reza Salleh
（2010 Redbag Music）
『Reza Salleh』
（レザ・サレー）

インディーシーンをリードするReza待望のデビューアルバム。時にポップに、時にジャジーに、ジャンルを特定するのが難しい彼独自の音楽と、彼の低めで柔らかい声は、休日午後のコーヒーブレイクにピッタリ。ライブ活動も活発に行っているため、ぜひ一度足を運んでみては？

Television
（2006 Redbag Music）
『Pete Teo』
（ピート・テオ）

マレーシアを代表するシンガー・ソングライターで、最近では映画界でも音楽の他、プロデューサーや俳優として活躍している。Televisionはジャズ・ベーシスト早川岳晴などの日本人ミュージシャンや海外アーティストとタッグを組んだ、Peteの2ndソロアルバム。日本でのツアーもほぼ毎年行っている。

葉一洋 のおすすめ

Konser KD
（2001 Warner Music Indonesia）
『Krisdayanti』
（クリスダイアンティ）

Krissdayanti
インドネシアで知らない人はいない歌手クリスダイアンティ。アジアから世界に通用する歌手を生み出すために制作されたフジテレビの「アジア・バグース」第一回目（1992年）の優勝者。その後、メキメキと実力を上げ、98年にマレーシアでもアルバムも発売し、その後「ベスト・インドネシアアルバム賞」などを受賞している。シティ・ヌルハリザともデュエット曲を出すなどマレーシア音楽界にはなくてはならない存在だ。

おすすめ2曲「Jangan Pergi（行かないで）」あまり有名でないが、彼女が初めてコンサートをしたときの冒頭の曲で、切なくいろいろと考えさせられる曲の一つ。

「Mencintaimu（あなたを愛して）」クリスダイアンティといったらこの曲。インドネシアで2000年頃に大ヒットしたバラード曲。

本誌スタッフの夫 のおすすめ

Raja Pop
（2003 Warner Music Malaysia）
『Jamal Abdillah』
（ジャマル・アブディラ）

Jamal Abdillah
ジャマル・アブディラ（実名ジャマル・ウバイディラー）は、1959年5月7日生まれ。歌手として有名になったきっかけは、1979年のBINTANG RTM（マレーシア放送局“BINTANG”）の大会で優勝だ。男らしく特徴的な歌声で、当時国民的なとして人気を博した。彼の歌声、人気は今でも変わりなく、マレーポップを語るに欠かせない人物といえる。おすすめは「KEKASIH AWAL & AKHIR（最初と最後の恋人）」、「SENDIRI（一人で）」とDerita Cinta（愛の苦しさ）」。俳優としても活躍しており、なかでも「AZURA」大ヒットした。

Hikida Yasutaka のおすすめ

Anuar Zain
姉のジアナ・ゼイン（Ziana Zain）が90年前半からブレイクしたのを機に、マレーシア航空のスチュワードから歌手として1998年にデビュー。（ラマダン・ハリラヤの曲を除けば）宗教的な歌詞や旋律を全く取り入れていないため、マレーポップ初心者でも十分に楽しめる。日本の歌手に例えれば平井堅とExileのいいとこ取りした感じ。
セクシーなハスキーボイスとイケメンの容姿からデビュー当初より女性ファンが多く、最近ではモデルとしても起用されていている。これまでにリリースされた完成度の高い楽曲の数々に今後も期待できる注目のアーティスト。

Anuar Zain
（2007 Anuar Zain Network）
（アヌアー・ザイン）

『Lelaki Ini（この男）』
恋人とのよりを戻すため、男のあきらめない気持ちを綴ったダイナミックなバラード。

『Perpisahan（別れ）』
大ヒット映画「Cinta」の挿入歌としても使われ、ゆっくりとしたテンポの旋律に大人の別れを表現。

Hikida Yasutake
某芸術大学の声楽科卒業、どりあんなど編集長。クラシック音楽100％のはずが、マレー＆インドネシアポップスにハマっている。
好きな歌手：アヌアー・ゼイン、ジャクリン・ヴィクター、アフガン 他

馬子 のおすすめ

Dragon Red
『Resureksi』
（2010）

Dragon Red
あまりマレーポップについて知らないのですが…。マレー系の友人にすすめられたのが、ロックバンド「Dragon Red」。ノリがよく、若者を中心に人気なのだそう。実際、聴いてみると…。まだまだ、殿堂入りするには長い道のりとなりそうですが、今後の活躍に期待したいとエールを送りたくなります。ライブの盛り上がりがすごいらしく、ハードロックホテルやアストロなどの音楽イベントで活躍中。こういったライブに参加すると、楽しいだけでなく、お気に入り新人を自分なりに発掘できるのが嬉しいですね。おすすめは「Dimanakah Rindu」。（編集部注釈：今号表紙がDragon Redです）

マレーポップの世界に欠かせない！ マレーシアの音楽事情

マレーシアのレコード大賞

今年はどんな歌が流行ったのか。手っ取り早く知るには、アワードものをチェックするのが一番。マレーシアでも毎年いくつかの音楽賞が発表されていますが、特にメジャーなものは以下の３つではないでしょうか。

★Anugerah Indutri Muzik（通称AIM：Music Industry Awards）
アメリカのグラミー賞に匹敵する、マレーシアで最も大きな歌の祭典。2010年の最優秀アルバム賞はファイザル・タヒールの“Adrenalin”、最優秀楽曲賞はユナの“Dan Senarnya”だった。

★Anugerah Juara Lagu（通称AJL: Champion of Songs Awards）
TV3が主催する音楽賞。歌手よりも作詞家及び作曲家が讃えられるのも特徴の一つ。2010年の最優秀楽曲賞は、アナ・ラファリの“Tolong Ingatkan Aku”。

★Anugerah Bintang Popular (Most Popular Artist Award)
マレー紙ブリタ・ハリアンが主催する芸能賞。歌手のみならず、TV俳優、映画俳優、ラジオDJ、TVパーソナリティーなど多くの部門があることが特徴。この10年間、歌手ではシティ・ヌルハリザとマウイが、それぞれ3回ずつ“最も人気のあるアーティスト”に選ばれている。

一挙にスターダムにのし上がった、オーディション番組の出身者たち

ここ10年ほどは、各TV局がそれぞれのオーディション番組を打ち出し、その出身者たちがマレーシアの音楽界をかなり賑わせています。ここでは、人気のあったオーディション番組とそこから生まれて現在活躍中のアーティストたちをご紹介！

Akademi Fantasia（アカデミ・ファンタシア、以下AF、2002〜2011）

2002年からASTRO RIAにて制作・放映されていた超人気オーディション番組。選抜オーディション自体をアカデミー（学校）と捉え、ファイナリストとして選ばれた12〜14名がスタジオ兼宿舎にて共同生活を送る。毎週土曜日にはコンサートが開催され、番組の終わりに、その日に去らなければならない生徒の名前が発表される。コンサートでは3名の審査員がいるものの、投票はすべて一般視聴者によるSMS票にて決まる。

Mawi（マウィ、第4期）
シリーズ放映中およびその直後、全国にセンセーションを巻き起こしたMawi。最初の頃は、声はいいけど歌はまぁまぁ、踊りは全くダメな田舎のお兄ちゃんといった印象の彼であったが、特訓の成果か歌唱力もメキメキupし、その不器用さとイスラムに対する敬虔な姿勢、そして時折見せるコミカルな仕草が、全国の老若男女、特に中年のおばさんたちの心を鷲掴みにし、シリーズ中盤頃から一気にNo.1へ。そのまま圧倒的な人気で優勝した。

Malaysian Idol（マレーシアン・アイドル、2004〜2005）

ご存知、アメリカン・アイドルのマレーシアバージョン。8TVにて2004年から放映。残念ながら第2期で終了となってしまった。こちらもAFと同じくSMS投票制。

Jaclyn Victor（ジャクリン・ビクター、第1期）
細くて小柄な体から、驚くような声量で歌い上げるインド系の女性歌手。Malaysian Idol出演前からホテルなどでは歌っていたらしいが、ここで優勝した後は、マレーシアを代表する歌手、そして時には女優としても活躍中。

One in a Million（ワン・イン・ア・ミリオン、2006〜2009）

前述のMalaysian Idolの後釜としてできた番組。勝ち抜きの方式が複雑で私にはいまひとつ理解できなかったが、この番組の出身者はMalaysian Idolの出身者よりも多く活躍中。

Faizal Tahir（ファイザル・タヒール、第1期）
第1期で準優勝。ルックスＯＫ、歌唱力抜群。何よりも自分のスタイルを崩さないロッカーの彼は、現在もヒット曲をバンバン飛ばし続けている。

Search & Wings
サーチ＆ウィングス

新しいミュージシャンが次々と現れるなか、いまだに人気を誇るのが、80年代後半から90年代にかけて一斉を風靡したロックバンドの数々。そのなかでも特に「Search」と「Wings」の人気は根強く、コンサートはいまだに超満員となります。

「Search」のボーカルAmyは、ファッションセンスも抜群で、50歳を過ぎた今でも体型をキープし、その年齢を感じさせません。

一方、「Wings」のボーカルAwieは全盛期時代から人気女優などとも浮名を流すプレイボーイでしたが、俳優としても活躍し、数年前には映画“Sumoh-lah”にも登場しています。

どちらのバンドも激しいロックからスローなバラード（スローロックというのでしょうか）まで、数多くのヒット曲を飛ばしてきました。

熱い歌詞、声を張り上げて歌い上げるその歌唱力。30代以上のマレー系の人々にとっては、「やっぱり最近の音楽は何か物足りないよね」ということで、現在に至っても、彼らの過去のヒット曲が支持され続け、テレビやラジオで繰り返し流されているのでしょう。

Siti Nurhaliza
シティ・ヌルハリザ

マレーシアの芸能事情に全く関心がない方でも、シティ・ヌルハリザという名前には聞き覚えがあるのではないでしょうか。そうです、ジャスコの親善大使として店内でのアナウンスや、ポスター等にその写真が載っている、あのキュートな丸顔の女性です。

国営放送RTMのオーディション番組で優勝して、1995年にわずか16歳でデビューを果たしたシティ。その愛らしくさわやかな笑顔と、抜群の歌唱力で一躍スターにのし上がります。得意のポップスをはじめ、伝統的な歌、時にはラッパーとの競演など、何でもこなし、マレーシア国民的アイドルのみならず、インドネシアでも人気を博すようになりました。「どんなに人気のある歌手も、結婚するとその人気は終わりを迎える」という当地のジンクスもなんのその、略奪愛でビジネスマンのDato' Kと2006年に結婚した後もその人気は衰えず、昨年はSimplysiti（シンプリシティー）という化粧品ラインまで発表し、ビジネス・ウーマンとしても成功を収めています。以前ほど歌手活動は盛んではなくなりましたが、それでも彼女はこれからも、マレーシアの歌謡界が誇る女王として君臨し続けることでしょう。